

# 書店消滅 ～書店を救え。まちを救え。～

班員： 片山茜(班長), 中島遥希(副班長), メルリーニ愛乃(資料 DB), 村上雄馬(印刷機器), 江端杏奈, 小原岳輝, 菊池ひかり, 小又暉広, 長谷川隼

指導教員： 谷口守 , TA：越川知紘

## 1. 背景

2016 年 2 月 12 日、長年つくば市民に愛されてきた友朋堂書店が閉店した。インターネット上では『友朋堂ロス』という言葉で書店の閉店に対する思いを表現する人もいる。書店の閉店はつくば市だけではなく、日本全国で起きている。一般ユーザーの口コミによる国内の閉店や開店情報をまとめている『閉店開店』というサイトを見るだけでも、2016 年 2 月のみで 33 店舗の書店が閉店していた。

書店数の減少により、書店に行きたくても行くことのできない『書店難民』が発生するのではないだろうか。つくば市に隣接するつくばみらい市は、現在関東唯一の書店の存在しない市であり、市内で書籍を買うことのできない状況である。今後書店の閉店が進むことにより、このような自治体が増えていくことが考えられる。また、書店数が減少していくことで、まちのにぎわいの喪失が考えられる。既存研究では、書店の訪問は「まちなかへの来訪者の滞留時間を確保するうえで重要な行動」とされている。書店消滅がまちなかへの滞在時間に影響を与え、まちのにぎわいが失われているのである。

以上の背景を踏まえて、私たちはつくば市におけるまちの書店を救うことを本実習の目的とした。まちの書店消滅を救うことで、かつての賑わいを取り戻すこと、また書店難民の発生を抑えることができるのではないかと考えた。

## 2. 現状把握

私たちは、つくば市周辺における書店消滅の問題を明らかにするために、書店消滅マップの作成とつくば市友朋堂書店へのヒアリング調査を行った。

### 2.1. 書店消滅マップ

#### 2.1.1. データの収集

表 1 書店消滅マップの概要

データ	電子電話帳 2003 年業種版 Special, 同 2015 年版
対象	つくば市, つくば市に隣接の 9 市町村
分析方法	電話帳の文具、書店というカテゴリからデータを取り出した。
備考	店名検索により文具店を除いたものを書店とした。

書店は 2003 年には 138 店舗、2015 年には 93 店舗存在しており、45 店舗減少したことがわかった。取り出したデータの中からさらに 2003 年から 2015 年までの間に閉店した書店、出店した書店を抽出し、市町村別に増減を調べた。その結果、つくば市周辺で 77 店舗が閉店、32 店舗が新たに開店していることが分かった。新たに開店した店舗のうち、1/3 にあたる 12 店舗が郊外のショッピングセンター内の書店であった。

### 2.1.2. マップの作成

2.1.1 で取り出したデータを GIS 上に表示し、同時に基盤地図情報、国土数値情報から入手した行政区画線と鉄道路線を表示した (図 1)。その結果、駅前で多くの書店が閉店しており、新規出店は郊外部で多いことが分かった。

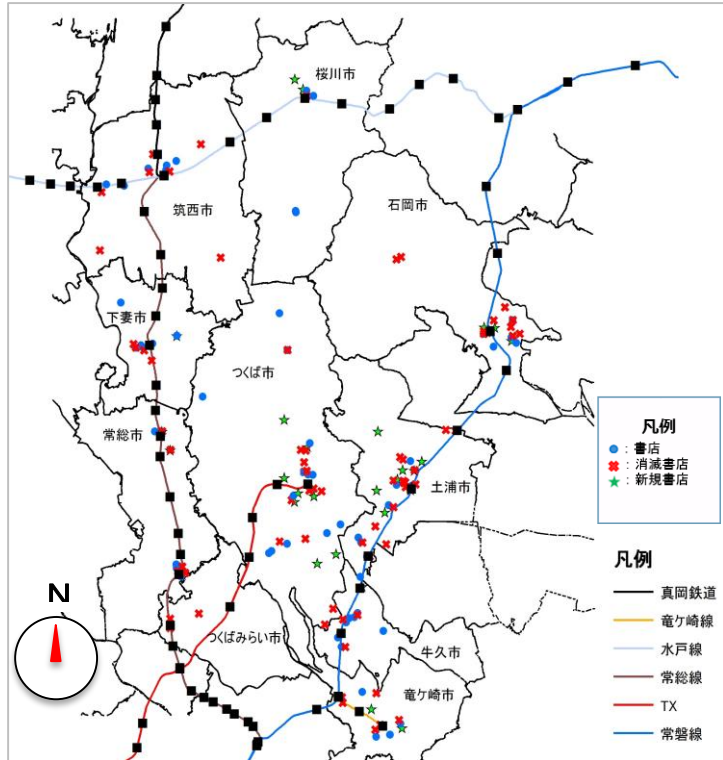


図 1 書店消滅マップ

### 2.2. 友朋堂へのヒアリング調査

書店閉店の原因を知るために友朋堂書店にヒアリング調査を実施した。ヒアリング調査の概要は表 2 に示す通りである。ヒアリング成果は以下の 3 つに分けられる。

表 2 ヒアリング調査概要

調査日時	2016 年 5 月 9 日 (月)
調査場所	友朋堂 吾妻本店
ヒアリング先	友朋堂 柳橋社長
参加者	片山, 江端, 長谷川, 指導教員, TA
目的	友朋堂閉店の経緯、現場で起きていたことの調査
質問項目	・友朋堂立ち上げ時について ・取次業者との関係について ・全国の書店の危機について など

### ① まちの変化

2005 年のつくばエクスプレスの開通により研究学園駅周辺が商業圏として繁栄したことや、東京へのアクセスが良くなったことで友朋堂を利用していた顧客が分散してしまった。

### ② 本に対する意識の変化

友朋堂の開店当時は雑誌がよく売れていたが現在は娯楽が多様化している。また、新本に対する憧れがなくなり、古本屋で購入する人や図書館の利用で済ます人が増えた。結果として、書店での売り上げが伸び悩んでいる。

### ③取次業者の倒産

友朋堂閉店の直接的な原因として取次業者の廃業が上げられた。書店の規模にもよるが、友朋堂書店と同規模の書店では別の取次業者と新しく取引するためには、営業を再開し書籍を一新するのに約 1 億円が必要である。友朋堂では 1 億円を用意することが困難であったため、新しい取次業者に乗り換えることが出来なかった。

### 2.3. 現状把握のまとめ

2.1, より、つくば市周辺で書店消滅が進んでいること、書店の郊外化が進んでいることが分かった。

2.2, より友朋堂閉店の原因はまちの変化や本に対する意識の変化が友朋堂の経営状態の悪化に影響を与えていたことがわかった。また、取次業者の倒産が閉店の直接的な原因であり、取次業者廃業の際に金銭的な余裕がなく、再び書店を立て直すことが不可能であった。このヒアリング調査より、

- ① 筑波大生も実際に本を買わなくなっているのか
- ② なぜ取次業者はつぶれてしまったのかという疑問点が生じた。また、ヒアリング調査を元にした班内での話し合いにおいて、
- ③ 最近の新たな形態の共通点はあるか
- ④ 出版広告が時代に合わないのではないかとという疑問も生じた。友朋堂書店でのヒアリング調査を通して感じた疑問点について深めるために実態調査を行うことにし、調査内容を 3～6 章にまとめた。

### 3. 筑波大生の書籍購入の実態

筑波大生の書店利用の実態を調査するために、アンケート調査を行った。アンケート調査の概要は表 3 に示す通りである。アンケート成果は以下の 2 つに分けられる。

表 3 アンケート調査概要

調査日時	2016 年 5 月 30 日 (月)～6 月 5 日 (日)
対象	住まいと居住環境の計画受講者 都市と環境受講者 その他協力者 筑波大生 186 名 (学群生 132 名、院生 54 名)
目的	筑波大生の書店、書物に関する実態把握
主な質問内容	・書店の利用頻度、ニーズ ・ネット通販、電子書籍の利用 ・友朋堂の利用頻度 ・友朋堂閉店前後の行動、感情の変化

### ① 書店・ネット通販での年間購入額

書店での書籍年間購入額が、学類生 11,533 円、院生 14,745 円、またネット通販での書籍年間購入額は学類生 5,323 円、院生 20,741 円であることが分かった。このことから、学類生は書店での購入が多いが、院生はネットの利用が多いことが分かった。

また、1993 年の都市計画実習のデータから、当時の学生の書籍年間平均購入額が分かった。アンケート実施場所が書店前であり同一条件での比較とは言えないが、書籍年間購入額は 62,435 円であった。2016 年の書店とネット通販を合計した書籍平均購入額が、学類生 16,856 円、院生 35,486 円であったことから、23 年間で購入金額が大きく減少していることが分かった。

### ② 友朋堂閉店前後での変化

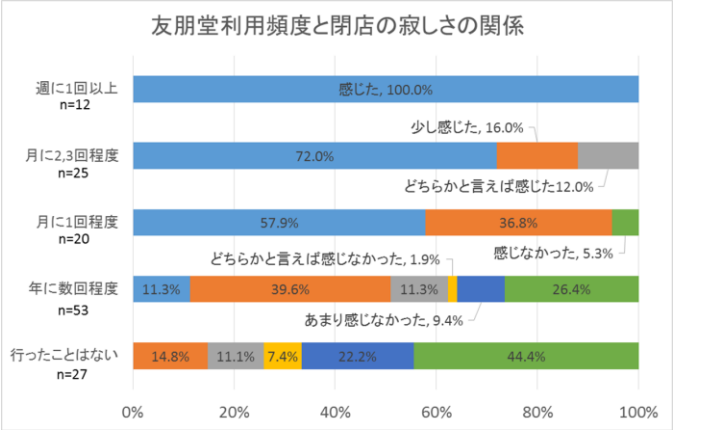


図 2 友朋堂利用頻度と閉店の寂しさの関係

図 2 より、友朋堂をほとんど利用していなかった人も、友朋堂の閉店に寂しさを感じている人が一定数いたことが分かった。

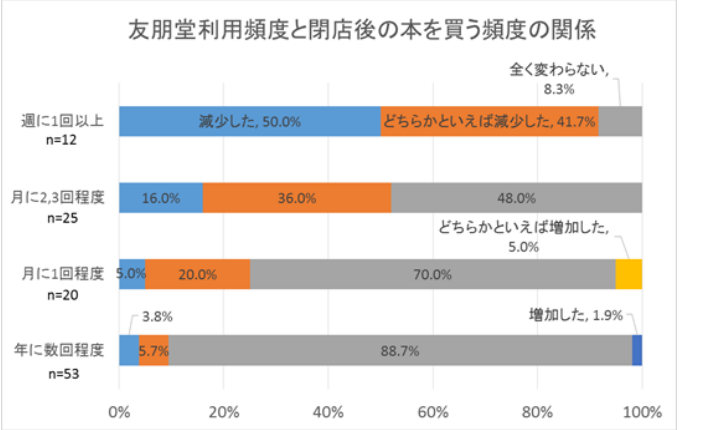


図 3 友朋堂利用頻度と閉店後の本の買う頻度の関係

図 3 より、友朋堂書店をほとんど利用していなかった人の 1-2 割が書店に行く頻度が減少したと答えている。この調査から、友朋堂の閉店は感傷的な影響だけではなく、実際に本に触れる機会を減少させていたことが分かった。

### 4. 取次業界の実態

取次業者がなぜつぶれているのかを調査するため、取次業界へのヒアリング調査を行った。概要は以下の通りである (表 4 参照)。ヒアリング成果は以下の 3 つに分けられる。



表 4 ヒアリング調査概要	
調査日時	2016 年 6 月 7 日(火)
調査場所	地方・小出版流通センター
ヒアリング先	代表取締役 川上様
参加者	江端,小又,メルリーニ
目的	取次業者の廃業の原因、出版業界を取り巻く環境の調査
質問項目	・設立について ・今後の書店はようになっていくか ・流通ルートの問題点について ・大手取次業者の戦略 など

### ① 出版不況

雑誌は流通のサイクルが早く、貴重な収入源であったがこれまで雑誌を購入していた団塊の世代が定年したことや、バブル崩壊により雑誌が売れない状況になった。

### ② 大手取次業者の戦略

売れる本屋の争奪戦状態である。書店を買収し、子会社化することで安定した大量の流通が生まれる。このような戦略に対し中小の取次業者が対抗するのは厳しい。

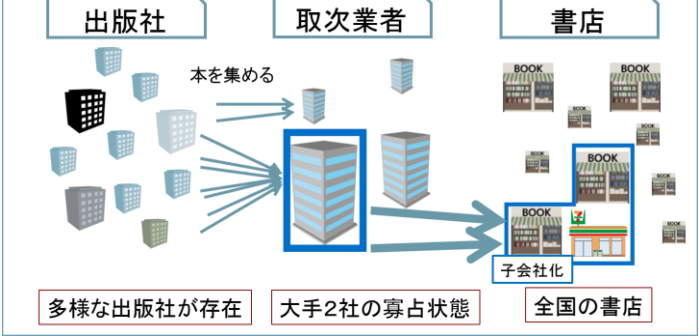


図 4 出版業界の現状

### ③ まとめ

出版業界の課題は

- 雑誌の売り上げを上げること
- 流通の仕組みを変えること

であるが実際には解決は難しいということだった。

### 5. 新たな書店形態の実態

閉店する書店がある一方で近年ではカフェ併設などさまざまな形態の書店が現れてきている。このような新形態の書店について理解するために現地調査とヒアリング調査を実施した。

### 5.1, 現地調査

現地調査の概要は表 5 に示す通りである。

表 5 現地調査概要	
調査日時	2016 年 5 月 2 日(月)
調査場所	代官山蔦屋書店,本屋 B&B,
参加者	サステイナビリティ班全員
目的	独自の戦略を持ち、まちに馴染んだ書店を知ること

#### ① 蔦屋書店(代官山)

特定のジャンルにしぼった選書をしていた。デザイン重視で、手にとって楽しめるような書籍の内容が多かった。また、カフェや骨董市などの施設と戦略的に複合しており、書店を中心とした憩いの空間を形成していた。

### ② 本屋B＆B(下北沢)

お酒を飲みながら書籍を選べるのが特徴的であった。営業時間も長く、ゆったりとした時間を過ごすことが出来る。また、毎晩数名のゲストによるトークイベントが開かれている従来の書店ではなかった新しい形で経営している。

### 5.2, ヒアリング調査

ヒアリング調査の概要は表 6 に示す通りであ。ヒアリング調査から分かった新しい形の書店を 2 つ紹介する。

表 6 ヒアリング調査概要	
調査日時	2016 年 6 月 14 日(火)
調査場所	株式会社フライングライン
ヒアリング先	代表取締役 鐘ヶ江様 「本が好き！」編集部 和氣様
参加者	片山, 中島, 長谷川
目的	出版広告の今後を知る 多様化する書店の実態の調査
質問項目	・出版広告の変化 ・新しい書籍のかたち ・出版業界の今後について など

#### ① BOOK ROAD(武蔵野市)

古本を扱う無人の書店。支払いにはカプセル自販機を用いる。本に価格が貼ってあり、その金額に応じたカプセルを自販機で購入する(図 5 参照)。本は地域の人々が寄贈しており、地域に支えられている。



図 5 BOOK ROAD のカプセル自販機

### ② 一箱古本市(不忍通り)

「不忍ブックストリート」と呼ばれる通りにおいて、様々な店の軒先などを借りて参加者がダンボール一箱分の古本を販売するイベント。本を売る人や買う人、場所を貸す人が交流出来るイベントとなっている。このイベントを参考にして同様のイベントを開催している地域もあり、全国的に広がっている。



図 6 不忍通りの様子

### 6. 出版広告業界の実態

出版広告業界について知るために、株式会社フライングラインへのヒアリング調査を行った。概要については 5.2 に示すとおりである。ヒアリング成果は次の 2 つに分けられる。

### ① 出版広告の現状

出版広告は古くより新聞の下側の広告欄を使って行われている。しかし、近年ではネットショッピングの利用が増えたため、新聞を見て書店に買いにいくというモデルが崩れつつある。また新聞自体の売り上げも減っているため、広告に触れる機会も減っている事がわかった。フライングラインではそこに目を付けて、Web 上での広告や、書籍のロコミサイト運営で新たな書籍の広告方法に取り組んでいる。

### ② 書籍の今後

今まではコストの関係で書籍化できなかったような書籍(5 ページしかない書籍など)でも良いコンテンツはたくさんあるため、それらが電子書籍として登場することになると考えられる。

3 章で行ったアンケートから 1993 年から現在まで、また友朋堂閉店によっても書籍購入額が減少していたことが分かった。また、4 章から 6 章で行ったヒアリング調査と現地調査から、現状の制度を変えることは難しいことが分かった。しかし、現代でも多様な形態の書店が存在していること、さらに新たな出版広告の形の模索が行われていることが分かった。

現状を踏まえ、つくばにも個性的な書店を作ろうと考えたが、1 店舗作ったところでまちの書店は救えないと思い、どうすればまちの書店が救えるかを考え、7 章にまとめた。

### 7. まちの書店を救うために

まちの書店を救うためにはどうすればよいか、つくば市を例に考えた。書店維持に必要な年間売上高を仮定し、その金額を超えることができれば、まちの書店が救えると考えた。文献調査により、友朋堂桜店と同規模の書店の年間売上高が 3 億円程度であったため、必要な年間売上高を 3 億円と仮定した。

最初に筑波大生で書店を救うことができるか考えた。筑波大生は約 16,800 人であるため、3 億円のためには 1 人当たり 17,857 円の購入が必要である。アンケートから、筑波大生 1 人当たりの書店での年間書籍購入額が 12,833 円であることが分かった。これより、3 億円のためには 1 人当たりさらに 5,024 円必要である。この 5,024 円は雑誌 13 冊、コミック 12 冊、専門書 2 冊に相当する金額である。

書店を救うため、次に私たちはネット通販での購入からまちの書店での購入に移行することで 3 億円に達するのではないかと考えた。アンケートから、筑波大生 1 人当たりのネット通販での年間書籍購入額が 11,564 円であると分かった。書店での購入額と合計すると 24,397 円となり 17,857 円を超えることが分かった。このことから、ネット通販から書店での書籍購入に移行することで、筑波大生で書店を救うことができると言える。

しかしこの仮定において、筑波大生だけでは 1.4 店舗の書店しか救うことができない。そのため、次に教員で書店を救うことができるか考えた。教員へのヒアリング調査を追加して行い、サンプル数は 7 であった。平均を出したところ年間書籍購入額が 48 万円だったため、大学教員全体では書籍購入額が 6 億 4 千万円であり、2.1 店舗の書店を救うことができる。このことから、筑波大学全体では約 3.4 店舗救うことができると言える。またヒアリング調査から、以前教員のほとんどが書店の営業での注文や店頭注文であっ

たが、今は主にネット通販を利用していることが分かった。最後に、つくば市民で書店が救うことができるか考えた。文献調査からつくば市の出版物需要が約 28 億円と分かり、9.3 店舗の書店を救うことができると言える。このことから、つくば市全体では約 12 店舗の書店を救うことができると言える。そのための方法として、ネット通販での購入をやめ、書店での購入に限定することでまちの書店が救えるのではないかと考察した。

表 7 つくばの年間書籍購入額と救うことができる書店数		
	年間書籍購入額 (億円)	救うことができる書店数
筑波大生	4.1	1.4
大学教員	6.4	2.1
筑波大学	10.5	3.4
つくば市民	28	9.3
つくば市全体	38.5	12.7

### 8. 謝辞

実習を進めるにあたり友朋堂吾妻店 柳橋様、地方・小出版流通センター 川上様、フライングライン 鐘ヶ江様、和氣様、インタビューにご協力いただいた先生方、近未来計画学研究室の皆さま、そしてアンケートに答えてくださった皆様にご協力いただきました。この場を借りて感謝いたします。

### 9. 参考文献

- 株式会社宅建 <<http://taku-ken.co.jp/>> 2016 年 6 月 17 日アクセス
- 書店マスタ管理センター <<https://www.jpoksmaster.jp/>> 2016 年 5 月 11 日アクセス
- 谷口守・橋本成仁・上田拓磨「行動連鎖表を用いたサイバー化によるとした都市滞留行動への影響分析―購買行動の子空間代替・保管関係に着目した試論―」,土木計画学研究・論文集,Vol27no2,p379,2010
- 東京商工リサーチ<<http://www.tsr-net.co.jp/>> 2016 年 5 月 11 日アクセス
- 東京新聞「増える書店ゼロの街」2012 年 8 月 12 日
- トーハン< <http://www.tohan.jp/>> 2016 年 5 月 11 日アクセス
- 日販 営業推進室 店舗サービスグループ 「出版物販売額の実態 2015」
- 日本出版販売株式会社<<http://www.nippan.co.jp/>>2016 年 5 月 11 日アクセス
- の の わ < <http://www.nonowa.co.jp/areamagazine/> > 2016 年 6 月 17 日アクセス
- 「みんながブックリするような、しかも、本当にほんしい本屋を、のほほんと作っちゃえい！」1993 年都市計画実習Ⅰ・地域科学演習Ⅰ 最終レポート
- 日本ソフト販売株式会社「電子電話帳 2003」、及び「電子電話帳 2015」
- 小田光雄 (2016)『出版不況クロニクルⅣ』論創社